

2020年1月1日  
65号

# かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 株式会社製作所ひたちなか総合病院  
〒312-0057  
ひたちなか市石川町20番1  
TEL 029(354)5111  
発行人 飯嶋和秀  
編集 広報委員会  
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>  
※バックナンバーは当院ホームページに掲載しております。

## 新年のごあいさつ

### 院長 吉井 慎一



令和になって初めての新年、明けましておめでとございます。皆様方におかれましては清々しい新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

昨年、地域包括ケアシステム構築に向けて、行政、医師会、介護施設を中心に議論は少しずつではありますが進展してまいりました。終末期を含めた最後の医療・介護を、住み慣れた場所で迎えたいと地域での医療・介護を希望する患者さんが増えています。しかし、この地域にはこれらを支える医療資源は、訪問診療や地域包括ケア病棟を含め、大きく不足していることは依然変わりありません。さらに、地域医療構想も、水戸も含めて常陸太田・ひたちなか医療圏では、大きな病院統合や機能分化はほぼ進みませんでした。主に公立・公的病院が中心に地域医療構想調整会議を進めてきましたが、地域の私立病院を巻き込んで、それぞれの役割についての議論が前に進むことがさらに重要になります。当院の2021年度に向けての中期経営計画では、病床の拡大や機能転化は行わない方針です。302床のうち回復期病床50床、感染症病床2床を除くと、急性期病床は250床です。昨年も急性期病床は満床になることが多く、地域の急性期患者の紹介や救急車の受け入れが困難になることが度々あり、地域の皆様方、医療・介護関係の方々には、大変ご迷惑をおかけしました。国が推奨している訪問診療を含めた在宅への移行は容易ではなく、患者さんの高齢化や一人暮らしなどの社会的要因から、急性期の治療が終了しても退院が困難な例が増加しています。効率のよい医療は、地域全体の医療資源を有効に活用することが重要で、その為には連続性のある連携可能なシステムが必要であり、地域の方々の協力とご理解が不可欠になります。今年は、これらが一歩でも進むよう、皆様と一緒に努力していく所存です。

昨年は4月から、外科専門医の2名増員、基幹型内科専攻医の3名採用、泌尿器科医の1名増員、整形外科医の1名増員がありました。2020年4月からは、当院採用の基幹型初期研修医を8名採用することが決まりました。医師不足の中、幸い2020年4月からの大幅な医師減少の予定はありません。しかし、依然として特定の診療科のマンパワーは不足しております。これらの診療科は、茨城県全体でも不足しており、増員が難しい状態が続くことが予想されます。地域医療構想の中には、これらの診療科の集約化も検討予定ですが、当該診療科医師の絶対数が不足しており、進展がない状態です。

国の医療政策は、「地域医療構想の実現」、「医師偏在の解消」、「医師の働き方改革」が3つの柱となっています。大都市、県内でも特定の地域に医師が集中しているだけでなく、特定の診療科に進む医師が不足しているのも問題を深刻化しています。今やれることは、負担の多い診療科の医師に対して、病院として医師秘書、薬剤師等を含めバックアップ体制をより強化して、少しでも皆様にご迷惑がかからないよう努力いたします。

2021年度に向けて、当院のめざす方向は昨年と同様、「①地域密着型の急性期基幹病院の方向性を打ち出すこと」、「②教育基幹病院として、質の高い医療を提供すること」、「③企業立病院として、地域貢献に協力すること」の三項目です。企業立病院として、昨年度は日立製作所が参加する2つの大きな国のプロジェクトに参加しました。「大規模診療データ収集と利活用に関する研究」と、「AIホスピタルによる高度診断・治療システム」というプログラムです。昨年度は来院された皆様に、大規模診療データの利用に関して、パンフレットをお渡しし、承諾をいただいております。このビックデータは、将来、診療のみならず、予防の分野でも活用でき、さらに個人の健康医療情報として皆様方が利用できるものになり得ます。医療とAIに関しては多くの問題がありますが、医療の質と安全の向上、医師を含め医療者の負担軽減のため必要不可欠なものであり、今年も引き続き取り組んでまいります。

最後になりますが、この一年間の皆様方、ご家族のご健勝とご活躍を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

## ひたちなか総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

1月		2月		3月		4月																									
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土				
			①	②	③	④							①	①	2	3	4	5	6	⑦							①				
1	⑤	6	7	8	9	10	⑪	2	⑫	13	14	15	16	17	⑮	3	⑧	9	10	11	12	13	⑭	4	⑤	6	7	8	9	10	⑪
月	⑫	13	14	15	16	17	⑮	月	⑨	10	11	12	13	14	⑮	月	⑮	16	17	18	19	20	⑳	月	⑫	13	14	15	16	17	⑮
	⑮	20	21	22	23	24	⑳		⑯	20	21	22	23	24	⑳		⑳	23	24	25	26	27	⑳		⑲	20	21	22	23	24	⑳
	⑳	26	27	28	29	30	31		㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗		㉑	30	31						㉒	27	28	29	30		

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センター休日



## 放射線治療センター



放射線治療センター  
センター長 三橋 紀夫

放射線治療は、レントゲン博士が1895年にエックス線を発見して間もなく開始されましたので、すでに125年にもなる歴史を持っています。開始当初は粗末な放射線治療装置を用いていたために、容認しがたい副作用も生じていました。しかし、近年の放射線治療は治療装置や治療計画に用いるコンピューター技術の飛躍的な進歩によって、手術に勝るとも劣らない治療成績を収めることができるようになりました。放射線治療の利点は、手術と異なり機能や形態を損なうことなく治療ができることです。

わが国では国民がどこに住んでいても同じ水準のがん治療が受けられるようにと、がん治療の均てん化を推し進めています。当院は地域がん診療連携拠点病院に指定され、常陸太田・ひたちなか保健医療圏の放射線治療センターの役割を担っており、年間の治療患者数は200名を超えています。

当センターのスタッフは、常勤の放射線治療専門医2名、放射線治療専門放射線技師2名（うち医学物理士認定取得者1名）、治療担当診療放射線技師2名、専任看護師1名、医療クラーク1名で構成されています。茨城県内では18施設で放射線治療を受けることができますが、2名以上の常勤の放射線治療専門医が治療にあっている施設は当院を含めて5施設に過ぎません。当院では高精度な放射線治療技術を駆使して最新の放射線治療を提供しています。特に腫瘍の形状に合わせて線量の強度を変化させ、かつ正常組織への照射を可能な限り低減する強度変調放射線治療（Intensity modulated radiotherapy: IMRT）を、前立腺がん、頭頸部がん、食道がんなどで行っています。また、早期肺癌や転移性脳腫瘍に対しては腫瘍にピンポイントで線量を集中させ、1回に大線量を照射する定位放射線照射も行っています。最近では当院の高い放射線治療技術が評価され、隣接する日立保健医療圏や水戸保健医療圏からも当センターでの治療を希望して紹介されてくる患者さんも少なくありません。また、放射線治療はがんを完治させる目的で行うだけでなく、がん性疼痛の緩和、がん病巣からの出血の止血、脳や脊髄の圧迫による神経障害の改善、気管、胆管、尿管などの通過障害の改善などを目的とした姑息的照射（対症的）としても、極めて有効性の高い治療法です。



放射線治療センタースタッフ





## 第10回地域医療連携大会を開催しました

2019年10月29日、地域医療連携にご支援いただいている医療機関の先生方、スタッフの皆様等、約170名をお招きして、地域医療連携大会を開催しました。

第1部では、当院の内科、血液内科医師による講演と、各科医師による診療科紹介、第2部では、医師・看護師・スタッフが、ご参加くださった方々と意見交換をさせていただきました。地域の先生からは「紹介状でのやり取りだけでなく、直接情報交換ができて有意義な時間を過ごせた。」という感想を頂戴しました。今後も、地域の先生方との「顔の見える連携」をめざし、地域医療連携を推進していきます。



血液内科 原田 匡一



内科 柴崎 俊一



地域医療連携推進センタースタッフ

患者さんに継続して適切な医療を提供するため、連携登録医制度を導入しています。

## 地域の先生紹介

### あやべ内科医院

#### ●当院の特徴

専門分野は、リウマチ、膠原病の内科的治療です。ひたちなか総合病院に、リウマチ膠原病センターが開設されており、入院が必要な患者さんをお願いできるので、大変助けて頂いております。膠原病などは、全身疾患ですので、個人の能力では、検査も治療も十分できない場合があります、その場合、各臓器の専門医の先生方に検査、治療をお願いしております。開業以来、ひたちなか総合病院や地域の先生方のお世話になり、大過なく診療できていること、この紙面を借りてお礼申し上げます。

リウマチ治療は、近年、生物学的製剤、JAK阻害薬など、新しい治療効果の高い治療法が開発されてきました。ただ、高価な治療になりますので、患者さんと相談の上、希望に沿った治療を進めていく方針であります。リウマチ以外の、生活習慣病をはじめとする一般内科の診療についても、地域医療の一翼を担うべく、努力していきたいと考えております。

#### ●院長の横顔

1985年筑波大学医学専門学群卒業。都立墨東病院で、内科初期研修後、筑波大学附属病院リウマチ・アレルギー内科勤務。1991年から2001年まで、(株)日立製作所水戸総合病院（現ひたちなか総合病院）に勤務。その後、東京生まれですが、暮らしやすい当地で診療所を開業して18年、ひたちなか市が一番長く生活してきた土地になりました。診療後に、オーディオ（特にアナログ=LP）を聴いて疲れを癒しております。（居眠りしているだけの噂も・・・）



院長 綾邊 健彦



医療連携に関するお問い合わせは地域医療連携推進センターへ

8:15~16:30（月曜日～金曜日）

TEL 029-354-5202（直通）

FAX 029-354-5220（直通）

## 冬流行の感染症対策 ～インフルエンザを予防しよう～

冬の時期、流行する感染症で最も話題になるのが「インフルエンザ」です。インフルエンザ予防には「予防接種」「咳エチケット」「手洗い」「うがい」が効果的とされています。

＊「インフルエンザにかかる」とは＊  
インフルエンザウイルスが口や鼻から体内に入り込み、増殖して発熱やのどの痛み等の症状が出た場合を言います。インフルエンザウイルスが体内に入り込むことを「感染」、ウイルスが増殖して症状が出ることを「発病」と言います。

### 【予防接種】

予防接種は「感染」を完全に抑える効果はありません。インフルエンザは「発病」後、多くの場合は1週間程度で回復しますが、肺炎や脳症等の重い合併症で「重症化」する場合があります。「重症化」を防ぐには、予防接種が最も効果的とされています。

### 【咳エチケット】

インフルエンザは、咳やくしゃみに含まれた「しぶき」をあびることによって感染します。インフルエンザにかかった方がマスクをすることで「しぶきを出さない」、かかっていない方がマスクをすることで「しぶきをあびない」ようにします。

### 【手洗い】

インフルエンザウイルスはドアノブ等、多くの方が触れる場所で12～48時間生きていられると言われています。環境表面に触れることで手指についたインフルエンザウイルスは、手指表面で15分程度生きています。流水と石けんで手洗いすることで、インフルエンザウイルスを物理的に除去します。

### 【うがい】

インフルエンザウイルスは、乾燥した場所で増殖します。うがいを行うことで口やのどの乾燥を防ぎます。また、体の中に入ったウイルスを排除する繊毛の働きを活発にします。

インフルエンザは、皆さんが日頃していることで防ぐことができる感染症です。インフルエンザにかからないよう、日頃している対策を続けましょう。



## 冬の水分補給

寒くなると、あまり水分摂取を意識しなくなりませんか？

実は冬季でも脱水になる可能性があります。冬季は寒さのため、のどの渇きを感じにくくなり積極的に水分をとらなくなります。また、空気が乾燥しますので体内の水分が失われやすい状態になります。特に、風邪やウイルス感染症による発熱・嘔吐・下痢などの時は、脱水に注意が必要です。

飲み物は水や白湯、スポーツドリンク、経口補水液などがありますが、脱水の「予防」と「改善」には飲料水の選択が変わってきます。

冬の水分補給のポイント

- ①日常的な脱水の予防のためには、こまめに白湯やお水を飲みましょう。特に暖房のついた部屋で過ごす場合は意識してください。
- ②運動などで大量に汗をかいた場合は、体内の水とともに電解質も失われるので、スポーツドリンクなどが適しています。
- ③発熱や嘔吐・下痢などで脱水症になった場合は、

水分の吸収速度の速い経口補水液が適しています。特にお子さまや高齢の方は、発熱や下痢などの症状が出た場合には、ゆっくりとこまめに飲むようにしましょう。体が冷える場合は少し温めても良いと思います。

令和最初の冬です。しっかり水分をとって元気にすごしましょう！

### ◆◆◆ 医師異動の紹介 ◆◆◆

診療科	氏名	異動日
内科	市川 誉基	退職 (2019.12.31)
神経内科	柴垣 泰 郎	退職 (2020.1.31)
臨床研修医	飯村 翼	退職 (2019.11.30)
	松岡 廣	採用 (2019.12.1)
	黒田 祥平	退職 (2020.1.5)
	河原 さくら	退職 (2020.1.5)
	伊藤 弘 樹	退職 (2020.1.5)
	高橋 瑞 季	退職 (2020.1.5)
	羽鳥 由 夏	採用 (2019.1.6)
	小出 知 樹	採用 (2019.1.6)